

* 占領下の東京天文台の「見学の葉」の編集代表者について

アーカイブ室新聞123号に「昭和26年の東京天文台見学の葉」、250号に「昭和24年3月1日の東京天文台見学の葉」という記事を書いた。そして259号に「昭和27年版東京天文台「見学の葉」発見」という記事を書いた。昭和27年版の「見学の葉」には編集者は東京天文台職員組合委員会となっているが、昭和24年版、昭和26年版には編集兼発行者の代表者として関口直甫氏の名前がある。昭和24年のものが第3版、昭和26年のものが第5版となっていたから、関口氏に第3版以前のもの、第4版をお持ちでないかと尋ねた。その際、関口氏がやっていた極望遠鏡についてもお尋ねした。極望遠鏡については項を改めるが、この「見学の葉」の編集者のことで関口氏から思わぬ情報が寄せられた。

昭和24年、昭和26年版の「見学の葉」には編集代表者として関口氏の名前があり、昭和27年版から代表者に個人名がない理由が述べられていた。

昭和27年11月1日発行の東京天文台の発行の「見学の葉」は第4版改訂版の奥付が写真1である。編集者は東京天文台職員組合委員会となっている。

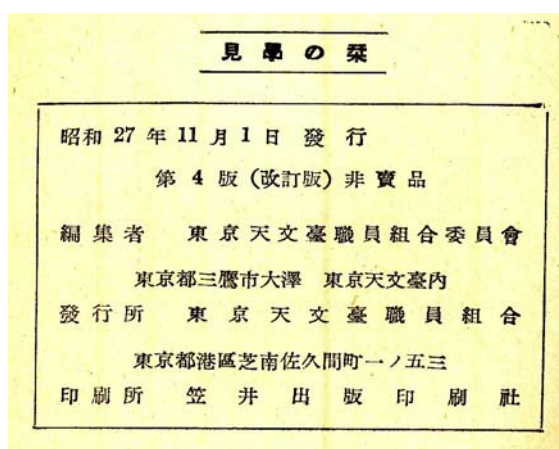


写真1 昭和27年版の奥付

写真2は昭和24年3月1日版、写真3は昭和26年4月1日版の奥付である。昭和27年版の奥付に代表者として個人名が書かれている。この事情について、関口氏からいただいた書状にその理由が書かれていた。太平洋戦争に敗れ進駐軍の占領下にあった日本では出版物の発行責任者の名前を書くことが義務付けられ、日本のあらゆる出版物を検閲して、反米・半占領軍的な記事があると、占領軍司令部(GHQ)に呼び出されて叱られ、罰金などが科せられたというのである。そのために「天文月報」には編集責任者として広瀬秀雄の名前が書かれていたそうである。その頃、東京天文台では広瀬先生は人身御供にされて可哀そうだと言われていたそうだ。関口氏も人身御供にされたと思っていたとあった。

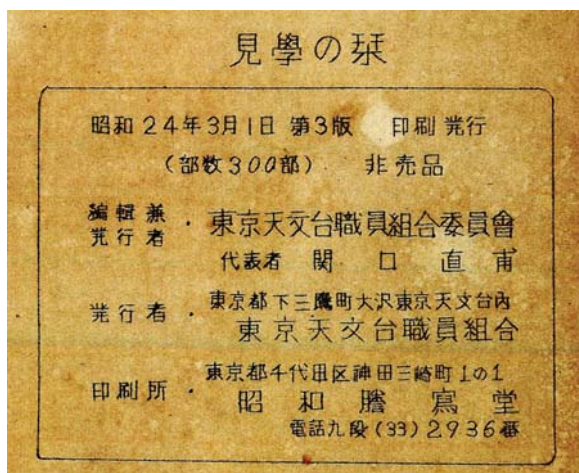


写真2 昭和24年版奥付

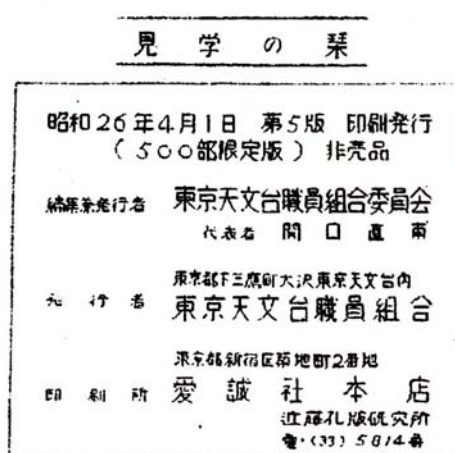


写真3 昭和26年版奥付

占領軍の支配下にあった日本が独立したのは昭和26年であった。対日講和条約である、サンフランシスコ講和条約が調印されたのは昭和26年(1951年)9月8日である。批准されたのは昭和27年(1952年)4月28日で、アメリカの占領下にあった日本は主権を回復した。サンフランシスコ条約調印は筆者が小学校2年生の時だった記憶がある。

戦後の縛りがこんな所にも現れていたとは感慨深いものがある。しかし、天文月報はその後も長らく、編集責任者として広瀬秀雄の名前があり、そして続いて森本雅樹の名前が入っていたと思う。

昭和24年版の見学の葉の表紙が写真4、昭和26年版の見学の葉の表紙が写真5である。



写真4 昭和24年版の表紙

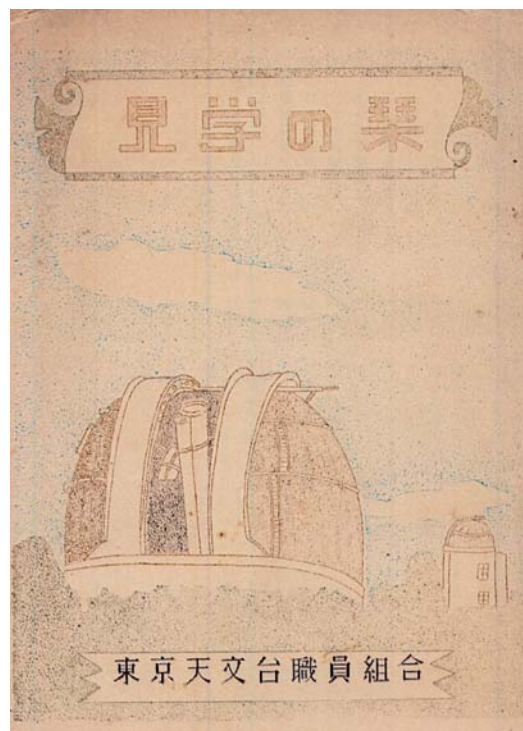


写真5 昭和26年版の表紙